

戦後日本の教育社会学を切り拓いてきた巨人、新堀通也。
理論研究から実証研究へ展開する、その知的営為の軌跡を辿る。

〈学術著作集ライブラリー〉

新堀通也

発行 学術出版会

発売 日本図書センター

【全7巻】

著作集

戦後の教育研究において、

数々の独創的な成果を挙げてきた著者が、

自ら編んだ著作集。遂に刊行！



Michiya
Shimbori

月並みだが「生涯現役」というコトバがある。急速に進む少子高齢化の波にさらされつつあるわが国が生きのびるためにも、また当の高齢者の生きがいのためにも、彼らが社会的弱者ではなく、積極的に社会に貢献することが望まれる。「生涯現役」「生涯学習」「生涯教育」などの理念や必要性が広くアピールするゆえんである。

こうした中で私は今年で九十二才を迎えるが、「生涯現役」を文字通り実践してきた自信がある。……今回、各方面からの要望と支援に支えられて、この著作集を出版することになったのも、教育の実践と研究に生涯を捧げてきたという「生涯現役」のあかしであり、あわよくばモデル、刺激になるかもしれない。

しかし、……膨大な出版物、著作の中から私自身にとって最も思い出の深いもの、今なお広く読んでもらいたいと思うものを選んで七巻の著作集に編集するという作業は想像以上に大変なものであった。……第七巻の巻末には私の略年譜と著作目録一覧とを載せた。第一巻(『わが自分史』)と併せて見てもうれば、私の「生涯現役」の実が理解できるのではないかと思う。

教育学という母国で受けた哲学的訓練は

移住先の教育社会学に影響を与え続けたように思う。

私は絶えず教育社会学の基礎理論の構築から逃れることができないでいる。

紫綬褒章受章記念「教育社会学と私」(第一巻収録)より

特色

1、待望久しい自選著作集

ルソー、デュルケームの研究に始まり、「学歴」や「学閥」研究など、戦後日本の教育社会学を数々の独創的な研究で切り拓いてきた新堀通也。生涯にわたる教育研究の軌跡を、自らまとめた復刻版著作集。

2、研究主題、執筆の趣旨により再構成

一〇〇点を超える膨大な著作から、その研究の概要を浮き彫りにするため、編年ではなく、主題別に再構成。単著のみでなく、重要論者の収録・抜粋まで、多様な方法で著者の業績をまとめた決定版。

3、入手困難な著作・論文を収録

『デュルケーム研究』『ネボティズム社会学の構想』『教育病理学の構想』ほか、入手困難な著作・論文を収録。また『歌集 戦中・戦後青春賦』は私家版のため、一部にしか知られていない著作である。

4、記録・資料としての高い価値

著者は、独力で新しい研究分野を切り拓く一方で幾多の共同研究をまとめ、教育研究をリードし続けてきた。その研究は、戦後教育・社会に関する貴重な記録である。各巻ごとに著者による「解説」を新たに付し、収録文献・論文の意義や背景を語る。

新堀通也 (しんぼり みちや)

1921年、神戸市に生まれる。1945年、旧制広島文理科大学教育学科卒業、旧制広島女子高等師範学校教諭。1946年、旧制広島高等師範学校助教授。1952年、広島大学教育学部助教授。その間、シカゴ大学留学。1968年、文部省社会教育官。1972年、広島大学教育学部教授、その後、同附属中高校長、教育学部長、教育研究センター長などを併任。1985年、広島大学退職、同名誉教授、武庫川女子大学教授、同教育研究所長に転任。2005年、武庫川女子大学退職、同名誉教授。1983年、中国文化賞。1987年、紫綬褒章。1992年、旭日中綬章。

本著作集収録以外の著書に『学問の社会学』(有信堂高文社)、『学者の世界』(福村出版)、『新堀通也の日本教育歴史』(安東由則編、北大路書房)など。編著に『大学教授職の総合的研究』(多賀出版)、『大学評価』(玉川大学出版部)、『臨床教育学の体系と展開』(多賀出版)など。翻訳に、リースマン『大学教育論』(共訳、みすず書房)、ベン・デービッド『科学と教育』(共訳、福村出版)などがある。

内容見本

第一章 デュルケームの教育社会学

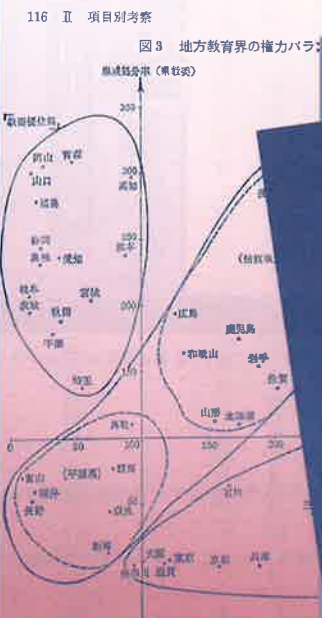
第一節 社会学の基礎論

社会学の必然性 以上述べ来たところによってデュルケームの思想の形成において、彼が社会学に到達したのはほとんど必然的であったことが容易に理解されるであろう。それは彼の心理構造からいっても論理構造からいっても、一種の必然であった。即ち彼には根本的に道徳の再建という実践的意図が働いていたが、その意図は科学に対する信頼の故に、人間及び道徳に関する従来の理論は、(一)普遍的、理想的な人間性や道徳を前提し、そこから実践的方策を演繹するという先験的方法をとって、現実の人間性や道徳から遊離しており、実践性を欠いているのでそれを何ら説明しえない。(二)価値判断的態度が混入しており、客観性を欠いているので、科学としての性格をもっていない。(三)個人主義的であって、人間性や道徳が社会的条件によって形成されていることを忘れていた。そのため、現実の人間性や道徳を説明しえないことは勿論、一種の絶対主義に陥って、人間性や道徳の相対性、社会的性格、歴史的性格を説明しえない。かかる基本的な難点をもった従来の理論にあきたらず反撥したデュルケームが、新しい科学を求めるときそれが、実証的、客観的、社会的性格をもつことは必然的であり、そうした性格をもった科学として

第一節 社会学基礎論

二七九

第3巻収録「デュルケーム研究」279頁(約40%縮小)



学歴

実力主義を阻むもの
新堀通也



ダイヤモンド社

日本の大学教授市場

学歴の研究
新堀通也 著

東洋館出版社

教育の時代叢書

▼第6巻収録「日本の大学教授市場」表紙：同書は、理論から実証的な研究へと展開した時期の著作である。研究職の社会を、市場占有率、自給率といった経済学概念を援用し、自在に論じる

▲第1巻収録「学歴」原：「学歴」という言葉は以前からあったが、単独で本のタイトルになったのは同書が初めてである。

▲第5巻収録「教育の県別診断」より

『新堀通也著作集』内容紹介

*収録内容は変更になる場合がございます。

第1巻 わが自分史・卒寿を超えた一教育者の歩み

刊行にあたって(新堀通也)

歌集 戦中戦後青春賦(私家版/2006年)執筆は1942-1948年

六〇年前の教育―歴史の教訓(信濃教育)2005年2月号/信濃教育会

戦後六〇年に想う(風土)2005年12月号

教育社会学と私(日本学術振興会『学術月報』1988年3月号)

わが研究の軌跡―ある教育研究者の「自分史」(武庫川女子大学教育研究所『研究レポート』

第33号/2005年3月)

教育研究の六〇年―分析図表の提唱(武庫川女子大学教育研究所『研究レポート』第36号/

2006年11月)

臨床教育学の課題―研究歴を踏まえて(武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科『臨床教育

学研究』第11号/2004年9月)

夜間大学院における実践(夜間大学院―社会人の自己再構築)東信堂/1999年)

ネボティズム社会学の構想(皇至道博士還暦記念論文集『現代教育学の諸問題』学研書籍/

1962年)

第2巻 ルソー研究と教育愛

ルソー再興(福村出版/1979年)

教育愛の構造(福村出版/1971年)*『教育愛の問題』(福村書店/1954年)改題

第3巻 デュルケーム研究と教育社会学

デュルケーム研究―その社会学と教育学(文化評論出版/1966年)

教育社会学の歴史と研究領域(友田泰正編『教育社会学』有信堂高文社/1982年)

第4巻 教育病理と教育風土

教育病理への挑戦―臨床教育学入門(抜粋)(教育開発研究所/1996年)

教育病理学の構想(『教育病理の分析と処方箋』教育開発研究所/1977年)

学歴―実力主義を阻むもの(抜粋)(ダイヤモンド社/1966年)

学問―この日本的なるもの(抜粋)(福村出版/1969年)

「見て見ぬふり」の研究―現代教育の深層分析(抜粋)(東信堂/1987年)

「殺し文句」の研究―日本の教育風土(抜粋)(理想社/1985年)

第5巻 新しい比較教育学―県別比較、組織比較の試み

教育の県別診断―あなたの県の教育を採点する(抜粋)(大阪教育図書/1977年)

校長の帝王学(上・下)(抜粋)(教育開発研究所/1993年)

知日家の誕生(抜粋)(東信堂/1986年)

知日家人名辞典(監修)(抜粋)(東信堂/1984年)

第6巻 新・大学教育論

大学評価―理論的考察と事例(抜粋)(玉川大学出版部/1993年)

学問業績の評価―科学におけるエポニミー現象(抜粋)(玉川大学出版部/1985年)

日本の大学教授市場―学閥の研究(東洋館出版社/1965年)

日本の学界―《学勢調査》にみる学者の世界(日経新書29)(日本経済新聞社/

1978年)

学生運動の論理―スチューデント・パワーと新しい大学の展望(抜粋)(有信堂/

1969年)

第7巻 アピール―日本国民に告ぐ

私語研究序説―現代教育への警鐘(抜粋)(玉川大学出版部/1992年)

老兵の遺言状―現代教育警世録(抜粋)(東信堂/1997年)

サバイバルのための教育―冬の時代を超える道(抜粋)(広池学園出版部/1988年)

親学・親業・そして祖父母業(『週刊教育PRO』2007年3月20日号/日本教育総合研究所

志の教育―「危機に立つ国家」と教育(抜粋)(教育開発研究所/2000年)

著作一覽/略年譜

*各巻巻頭に著者による解説を新たに付す。

日本の教育社会学を切り拓いてきた著者による、待望の自選著作集！

新堀通也著作集【全7巻】

ISBN978-4-284-10402-9

■定価 126,000円(本体:120,000円+税)

■解説 新堀通也(広島大学名誉教授、武庫川女子大学名誉教授)

■体裁 A5判、上製、総約3300頁

■収録内容

2014年1月刊行

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 第1巻 わが自分史・卒寿を超えた一教育者の歩み | 第5巻 新しい比較教育学—県別比較、組織比較の試み |
| 第2巻 ルソー研究と教育愛 | 第6巻 新・大学教育論 |
| 第3巻 デュルケム研究と教育社会学 | 第7巻 アピール—日本国民に告ぐ |
| 第4巻 教育病理と教育風土 | 著作一覧・略年譜 *各巻に著者による解説を付す。 |

主要底本 『日本の大学教授市場』東洋館出版社(1965年)／『学歴』ダイヤモンド社(1966年)／『デュルケム研究』文化評論出版(1966年)／『学生運動の論理』有信堂(1969年)／『教育愛の構造』福村出版(1971年)／『日本の学界』日本経済新聞社(1978年)／『ルソー再興』福村出版(1979年)／『学問業績の評価』玉川大学出版部(1985年)／『サバイバルのための教育』池田学園出版部(1988年)／『私語研究序説』玉川大学出版部(1992年)／『大学評価』玉川大学出版部(1993年)／『校長の帝王学(上・下)』教育開発研究所(1993年)／『教育病理への挑戦』教育開発研究所(1996年)／『老兵の遺言状』東信堂(1997年)／『夜間大学院』東信堂(1999年)／『志の教育』教育開発研究所(2000年)／『歌集 戦中・戦後青春賦』私家版(2006年)

【おすすめ先】公共図書館／大学図書館／教育学・社会学・教育行政の研究者／広く教育関係者など

「学術著作集ライブラリー」好評既刊

教育学界に屹立する、市川昭午の教育研究。自選著作集

市川昭午著作集 全7巻

ISBN978-4-284-10385-5

■定価 98,700円
(本体94,000円+税)

■体裁 A5判、上製
総約3000頁

■解説 市川昭午(国立教育政策研究所名誉
所員、国立大学財務・経営センター名
誉教授)

■刊行 2013年2月

収録内容

- 第1巻 学校管理運営の組織論、専門職としての教師
- 第2巻 教育行政の理論と構造
- 第3巻 生涯教育の理論と構造、生涯 仕事／学習社会の実現を目指して
- 第4巻 未来形教育
- 第5巻 教育の私事化と公教育の解体
- 第6巻 未来形の大学
- 第7巻 論文集成 教育の財政と経済 *本著作集のための目録論文集
解説／略年譜／主要著作目録

大正新教育運動を牽引した、独学の教育実践家

及川平治著作集 全5巻

ISBN978-4-284-10376-3

■定価 99,750円
(本体95,000円+税)

■体裁 A5判、上製
総約2700頁

■解説 橋本美保(東京学芸大学教授)

■刊行 2012年10月

収録内容

- 第1巻 新教育学、如何に国語を教ふ可き乎、如何に歴史を教ふ可き乎、如何に地理を教ふ可き乎
- 第2巻 分団式動的教養法
- 第3巻 分団式各科動的教養法
- 第4巻 分団式動的教養法講義要項、動的教養学要領／動的教養論(八大教育主張)
- 第5巻 動的教養論(内外教育叢書 第4巻)、尋常一学年知能検査指針、習慣態度の試行的測定目標、郷土化せる手工カリキュラムの構成、算術中心生活単位の教科案、解説／略年譜

〈発行〉
学術出版会

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2
TEL 03-3947-9153 FAX 03-3947-9157
http://www.gaku-jutsu.co.jp
E-mail: info@gaku-jutsu.co.jp

〈発売〉
日本図書センター

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2
TEL 03-3947-9387 FAX 03-3947-1774
http://www.nihontoshu.co.jp

取扱書店

T131018

推薦のこぼ

(かの よしまさ／香川大学教授、日本教育社会学会会長)

先生は、若いときはルソー研究やデュルケム研究などの理論研究に傾注されたが、フルブライト交換教授としてシカゴ大学に留学されたからは、だんだんと実証的研究へと転身されていった。その嚆矢は『日本の大学教授市場』『学歴』『学問』の三部作であるが、実証研究のアイデアは、あり余るほどに豊富であり、かつ、独創的である。そこに新堀教育社会学の神髄があるように思う。「知自家の誕生」や「殺し文句の研究」「私語の研究」「教育の県別診断」など、どうしてこんなユニークなテーマを思いつかれたのか驚嘆してしまいが、それを支えるのは、先生の知的好奇心と若い時の理論研究である。皆が見過ごしてしまうような現象を、分析して出版される手腕は見事というほかない。

先生は、若いときはルソー研究やデュルケム研究などの理論研究に傾注されたが、フルブライト交換教授としてシカゴ大学に留学されたからは、だんだんと実証的研究へと転身されていった。その嚆矢は『日本の大学教授市場』『学歴』『学問』の三部作であるが、実証研究のアイデアは、あり余るほどに豊富であり、かつ、独創的である。そこに新堀教育社会学の神髄があるように思う。「知自家の誕生」や「殺し文句の研究」「私語の研究」「教育の県別診断」など、どうしてこんなユニークなテーマを思いつかれたのか驚嘆してしまいが、それを支えるのは、先生の知的好奇心と若い時の理論研究である。皆が見過ごしてしまうような現象を、分析して出版される手腕は見事というほかない。

湧き出るアイデア

加野芳正

透徹した理念をもとに、時代と向き合う

押谷由夫

戦後の我が国の教育界を牽引し、教育研究を世界レベルにまで高められた代表的研究者であられる新堀通也先生の待望の著作集が刊行されました。先生の研究の足跡は、我が国の戦後の教育研究の歩みそのものでもあると言つて過言ではありません。

私は、本著作集から特に次のことを学びます。一つは、多感な青春時代に戦争を体験し、未曾有の混乱・荒廃の中から新しい平和な日本を再建しようと立ち上がった若き研究者・教育者の、生涯にわたる生き方です。第一巻は、先生の豊かな感性と情熱をもとに書き綴られた青春時代の詩歌から始まっています。そして、女学生とともに、理想と使命感と希望をもって歩まれた姿が生きて描かれています。そこを原点として、日本の将来と世界に目を向けた先生の研究・教育の歩みが始まるのです。全巻を通して、その思いが伝わってきます。

二つは、先生と道徳教育とのかわりです。道徳教育は、自己を見つめることと志を育てることと、教育愛が根幹にあります。先生の学問的姿勢は、まさにこの三つにあると思います。そして、時代と社会と格闘されるのです。本著作集は、青春賦から始まり、教育愛、ルソー研究、デュルケム研究、自ら属する大学研究、研究者の研究、学問の研究、教育病理研究、学校経営研究、自分史研究、そして最後は、志の教育で結ばれています。教育の根幹である道徳教育の本質的あり方を、時代と向き合つて学ぶことができます。私にとって、先生は生涯の師であり、本著作集は生涯の座右の書です。

(おしたに よしお／昭和女子大学大学院教授、日本道徳教育学会会長)